

横須賀市廃棄物減量等推進審議会（第69回）議事概要

- 1 日 時 令和2年(2020年)7月31日(金) 午後2時00分から3時30分まで
- 2 場 所 横須賀市役所 消防局庁舎4階 災害対策本部室
- 3 出席委員 青委員、安部委員、上田委員、織田委員、北村委員、佐藤(明)委員、佐藤(幸)委員、鈴木委員、関矢委員、藤田委員、米村委員、渡辺委員
- 4 事務局 資源循環部 坂下部長
廃棄物対策課 山口副部長
資源循環総務課 宍戸課長、菱沼係長、大野田係長、大野、中村
資源循環推進課 関澤課長
資源循環施設課 府馬課長
リサイクルプラザ 大石館長
広域処理センター 高橋所長
資源循環久里浜事務所 山本所長

5 傍聴者 1名

6 議事内容

開会

事務局が定足数である半数以上の委員の出席を確認し、会議の成立を報告した。

議事

(1) 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定スケジュールについて

○佐藤(幸)委員長

それでは議事に入ります。「一般廃棄物処理基本計画の策定スケジュールについて」とありますので、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

(資料1について説明)

○佐藤(幸)委員長

ごみ処理基本計画の策定スケジュールについて説明がありました。ここで質問、意見等の

ある方はいらっしゃいますか。今のところ無いようですので、またその他の所でご質問等があれば、改めて出させていただきたいと思います。

（2）一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の概要及び策定スケジュールについて

○佐藤(幸)委員長

つづきまして、議題の2の（2）一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定のための基本情報について、事務局の方から説明をお願いいたします。

○事務局

（資料2・3に基づき説明）

○佐藤(幸)委員長

人口およびごみ処理実績は一般廃棄物処理基本計画の基本となる情報でございます。ごみ量の推移に関しましては、5か年の推移で表しており、人口は減少傾向が続いています。基本的には人口が減るとごみの排出量も減りますが、ごみ量の推移を見ますと人口が減少したにもかかわらず、令和元年度は前年度と比べてわずかに増加しています。そのような傾向について質問やご意見をいただきたいと思います。

○青委員

これまでの審議会で委員の方々と議論をしてきましたので、ごみ量の増加や集団資源回収量の減少という結果になってしまったのが非常に残念です。新型コロナウイルスの感染拡大前に、欧州で資源化ごみの増加やごみそのものの減少を目的とした様々な会議に出席させていただきましたが、横須賀市では逆の傾向にあることが非常に残念でなりません。

○佐藤(幸)委員長

他の委員の方はいかがですか。（上田委員が挙手しているのを見て）はい、どうぞ。

○上田委員

青委員からご意見がありましたが、ヨーロッパと横須賀市では全く逆の傾向であるということですが、できましたら具体的な内容を1つだけでも教えていただけますでしょうか。

○青委員

この場ではご紹介しきれないので、またの機会にご説明したいと思います。

○佐藤（幸）委員長

青委員にはヨーロッパなどの状況を資料として、事務局へ提出のご協力をしていただきたいと思います。他の方はいかがですか。（米村委員が挙手しているのを見て）はい、米村委員。

○米村委員

令和元年度の燃せるごみ等の増加については、他都市からの災害ごみの受け入れ、あるいは横須賀市内で発生した災害ごみが原因ではないかと思えます。これからの気候変動の推移を考慮すると、このようなことはしばしば起こりうると思えます。通常のごみ処理体制では対応できないごみの発生方法や形状、量といったものに対して、横須賀市としてどのような対応ができるか今のうちから考えていくような議論を行うと良いのではないかと思います。

○佐藤（幸）委員長

委員のご意見に対して、事務局の方から何かご回答はありますか。

○事務局

近年の横須賀市では、最近の九州や広島、長野で起きたような大きな災害の被害にあっていないのが現状ですが、環境省や神奈川県の方では災害に対する経験や知見が深まっており、情報提供や問い合わせが多くなっています。昨年の台風では仮置場が必要ということで、どのような場所だったら仮置場を作れるかという話を進めました。今年についてはもう一歩進んで、公園など横須賀市の施設や土地で仮置場として使用できる場所がないか検討しています。

○佐藤（幸）委員長

その他にご意見、ご質問はありますか。いかがでしょうか。種類別のごみ量の推移の縦軸を見ますと、種類によって軸の数値が異なっています。増減を比較しやすいようにグラフを作成していただいたと思いますが、委員の皆様には全体を同じスケールで比べた上で、何が一番影響あるか考えていただきたいと思います。ごみ処理基本計画の策定にあたって横須賀市の方には、実数を誤解のないようなかたちで、わかりやすく案を作っていただきたいと思います。

資料3の右下の「令和元年度の主な特徴」で台風15,19号により被災した東京湾対岸の近隣自治体から可燃ごみの受け入れで115トンという数値がありますが、同台風被害で横須賀市内ではどのくらいのごみが排出されたかという実数を今の段階で公表できますでしょうか。後の方がよろしいでしょうか。わかりました。青委員の方からヨーロッパ等の情報提供を受けていただきまして、ごみ処理基本計画策定に活かしていただきたいと思います。

す。よろしければ次の議題に移りたいと思います。

（３）一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定について

○佐藤(幸)委員長

議題の（３）一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定について、事務局より説明をお願いします。

○事務局

（資料４、別紙①・②、資料５に基づき説明）

○佐藤(幸)委員長

ごみ処理基本計画の中身をこのような形で作っていきたいというご説明でした。只今の説明について、ご意見、ご質問等をお願いいたします。関矢委員、お願いします。

○関矢委員

資料４の２「新たな一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の基本理念、基本方針について」で新計画では４Ｒを基本方針とするとありますが、私は最終処分場の延命なども含めて、ごみを減らすにはサーマルリサイクルが効果的だと思います。また、新計画のリフューズも良いと思いますが、修理して使用するリペアというものもあります。壊れた家電を家電量販店に持っていくと買った方が安い、早いと言われてしまうので、４Ｒにリペアを加えた５Ｒと最終段階としてサーマルリサイクルを加えた考え方はいかがでしょうか。

次に、50cm以下の家電の粗大ごみから不燃ごみへの分別変更についてお伺いしたいのですが、各拠点で行っている使用済み小型家電の回収を廃止にして、集積所に出してもらって回収するというのでしょうか。

また、紙の資源化について、今回レジ袋が有料になり、中には紙袋が有料になったお店もあります。これまで小さい紙も含めて集団資源回収によるリサイクルを進めてきましたが、袋の有料化に伴い集団資源回収に出す袋が減っています。それに対して、どのようにお考えでしょうか。

続いて、家庭系剪定枝の資源化についてです。横須賀市では１月から分別区分が変わりました。資料３の施設別処分量（搬入量）を見ますと、積替保管施設における不燃ごみの搬入量が前年度に比べて545トン減少しており、焼却施設では2,882トン増加しています。種類別排出量について見ますと、不燃ごみは585トン減少しています。これらは、１月から３月分の分別変更によるものだと考えられます。不燃ごみは四半期で585トン減少していますので、年間で換算すると2,340トン減少する計算になります。仮に、直営で減少し

ている不燃ごみの回収の日に剪定枝を出していただき別個で集めると、剪定枝の収集が可能になると思います。

最後に、高齢化についてです。横須賀市は高齢化率が高いです。今まで4分別でやってきましたが、お年寄りの方がなかなか4分別の区分けができないということで、不燃ごみの日に排出指導シールが貼られ、ごみが残ってしまう問題が発生しています。1月から3月の間でどれくらい排出指導シールが貼られたものがあるか知りたいです。収集日によってはシールを貼られても、次の日にシールを剥がせば燃せるごみを回収していただけるかもしれないですが、それではルール違反になりますので、その辺も含めてお聞きしたいと思います。

○佐藤(幸)委員長

関矢委員から5つほど意見をいただきました。1つ目は新計画の基本方針について4Rから5Rに増やす案、2つ目は50cm以下の家電の粗大ごみを不燃ごみに変更するための方法について、3つ目は集団資源回収に出す際の袋についてです。4つ目は家庭系剪定枝の資源化に伴う分別を含めた収集方法の検討について、5つ目は高齢化に際して排出指導シールを貼られたものが多く残ってしまう状況についてご質問およびご意見をいただきました。具体的な内容もございますが、横須賀市の方から現段階での考えをご説明いただけますでしょうか。

○資源循環推進課長

50cm以下の家電の粗大ごみから不燃ごみへの分別変更の背景は2つございます。まず1つ目は、現在エコミルへの直接持ち込みが増えている点です。2つ目は使用済み小型家電の回収ボックスに回収の対象品目外のものが多く入ってしまったという点です。使用済み小型家電のボックスであれば無料で出せることが理由として考えられます。料金でいえば、直接持ち込みと申し込みによる回収を比較した場合、直接持ち込みの方が安いというのが直接持ち込み増加の理由として考えられます。また、先ほどおっしゃられたように高齢者による出し方や出しやすさ、収集効率を考慮した上で、50cm以下の家電を定日収集で対応できないかと考えました。

高齢化に伴う不燃ごみの分別に関しましては、高齢者によるものか具体的にはわかりませんが、確かに不燃ごみの日にプラスチックが混入されているという事実は収集の方から確認が取れております。不燃ごみと燃せるごみの収集日の兼ね合いは地区によって異なります。それに伴い排出指導シールの貼られたごみが集積所に残る日数も地区によって異なりますので、排出指導シールが貼られたごみの残し方の工夫や住民の方々への周知方法等を収集を行っている職員と調整しながら今後対応していきたいと思っております。

○佐藤(幸)委員長

関矢委員のご質問、ご意見に対して一部ご回答していただきました。追加の説明がありましたらお願いします。

○資源循環総務課長

家庭系剪定枝の資源化につきまして、不燃ごみの減少に伴い不燃ごみの回収日に家庭系剪定枝を収集してはどうかというご意見をいただきました。家庭系剪定枝の資源化につきましては関矢委員がおっしゃられる通り、収集が一番の大きな課題ですので、いただいたご意見も踏まえましてこれからの収集について検討していきたいと思っております。

また、4R からリペアを増やした5R という案をいただきました。これにつきましても3R から4R にして一歩進めるように考えていましたが、さらにもう一歩進めるというご提案をいただきましたので、今後部内のプロジェクトチームの方で検討を進めた上で、皆様にご提案させていただきます。

○佐藤（幸）委員長

その他にご意見、ご質問等ございますか。（上田委員が挙手しているのを見て）上田委員、どうぞ。

○上田委員

関矢委員からお話がありました5R については私も賛成です。リデュースには食品ロスの削減も含まれまして、食事を作りすぎて食べきれない、または材料が使われないと最終的にはごみとなってしまいますので、行政も一緒になって無駄なものを作らないようなルールを作る必要があると考えます。リペアについては、壊れたらすぐ捨てるのではなくもう一度見直して大切に品物を使うという姿勢が大事ですので、基本理念を作る上で必要だと思います。

本日の資料の中で、集団資源回収量と種類別ごみ排出量を提示していただきました。私の町内会では毎月の資源回収を新聞に載せています。それによって、前月との増減比較や資源回収場所など町内の方の関心が高まるようになります。ごみについて市民の方々に知っていただくためには、このような資料となるデータを広報よこすかななどで内容が伝わるようにわかりやすく開示する必要があると思います。

○佐藤(幸)委員長

上田委員からリペアを含めた5R の賛成意見と、データを見せるだけではなく、意味が伝わるような具体的かつわかりやすいデータを広報等に載せてほしいというご意見をいただきました。これを基本計画に反映していただければと思います。その他ご意見、ご質問等はございますか。佐藤委員、いかがでしょうか。

○佐藤(明)委員

50cm 以下の家電の分別変更についてお伺いいたします。50cm 以下の家電というと、どのようなものがありますか。昨年の 11 月頃に台風の影響か換気扇などの小さいモーターがついた家電が多く出ました。小さいモーターがついたストーブやガステーブルは製鉄所などの施設へ持っていくと処分ができず問題になります。そういったものや壊れてしまったものも 50cm 以下の家電に含まれるのでしょうか。

次に、災害についてです。昨年の台風の影響で 11・12 月は平常時のごみ量の 50%増、1・2 月は 100%以上の災害ごみが多く出ました。また、解体の件数も 3・4 月頃は多かったです。昨年の台風 15・19 号のうちの 1 つは三浦半島に上陸したため、千葉県と同じぐらい海側に被害が出ました。さらには壊れたプレハブも大量に排出されました。私のところでは災害の協定で大地震が起きた場合、公園は避難場所になってしまうため、仮置場として使えません。さらには道路も寸断されてしまいますので、これらを考慮していただければと思います。

○佐藤(幸)委員長

では始めに 50cm 以下の家電の対象についてご説明いただけますか。

○資源循環推進課長

例えば、コンセントに繋いでマットを敷いて使う蚊取りマットなどがあります。また、モーターのついた換気扇等も対象になるかと思えます。基本的には小さくて、収集業務に支障をきたさないものが対象となります。現状、粗大ごみは 50cm 以上のものに限定していますので、それを家電製品の方にも適用してはどうかという考えです。

○佐藤(明)委員

台風などの災害によって壊れたものは 50cm 以下の対象になりますか。

○資源循環推進課長

この施策に関しましては、り災ごみではなく家庭で不要になった小さい家電製品を対象として検討しています。

○佐藤(幸)委員長

米村委員や佐藤委員から災害の話もありました。その点につきましては、新しい計画の第 5 章の災害廃棄物対策にて反映していただきたいと思えます。続きまして藤田委員、お願いします。

○藤田委員

資源回収について、佐藤委員のお話にありました品目は、1月から一切資源回収の品目に入っておらず、すべて粗大ごみになっています。そのようなことが原因で粗大ごみの量が増加しているのではないかと考えられます。手作業で金属を分ければ資源化できるとは思いますが、現状ではできないと思います。

また、先ほど紙袋のお話もありました。紙袋ではなくビニール袋でも良いのではないかという方がいますが、それではアイクルの施設の選別所や我々の収集段階でも処理できないので、現在は紙袋で出せない場合には新聞紙に包むようお願いしておりますが、新聞を取っていない方も多くいらっしゃいます。そのようなことが原因で資源回収量が減っているのではないかと考えられます。市で袋を配るのは難しいと思われしますので、しばらくは紙袋で対応する予定ですが、なにか包むものがあればと思います。段ボールに入れるという方法もありますが、それではアイクルの負担が大きくなってしまいます。

○佐藤（幸）委員長

自治体によっては大きめの袋を市民に配るところもありますが、金銭面の問題もありますので市としては藤田委員のお話を参考にさせていただければと思います。続いて織田委員、いかがでしょうか。

○織田委員

商店街では、ごみとなった傘を自ら処分せずに商店街に捨てていく方やコンビニで買ったものを分別せずにまとめてビニール袋に入れて捨てていく方がいらっしゃいます。これらのごみをお店の方が分別して捨てていますが、その作業は大きな負担となっています。大きなごみが不法投棄されたような場合は、行政で対応していただけますが、このような細かいところに関しましても行政の方で注意喚起していただきたいと思います。

新計画の方針の中に発生抑制（リデュース）とありますが、「どのようなものを使わないでほしいか」ではなく「どのようなものを使ってほしいか」を、新たなものを提案するなどして新計画の構成の中に入れていただきたいです。主婦の方もレジ袋をごみ袋として使用していましたので、レジ袋の有料化に伴い何か代替りのものをご提案していただければと思います。

○佐藤（幸）委員長

他の委員の方にもご意見をお伺いいたします。安部委員、いかがでしょうか。

○安部委員

集団資源回収量が減っている件につきまして、小さい紙を燃せるごみに出される方が多くいらっしゃいますので、集団資源回収として出していただくためにも積極的に声掛けを行うことが重要だと思います。そうすれば、集団資源回収量も増加するのではないかと思

います。また、レジ袋の有料化によって、エコバッグを使う方が増えていますが、現在の新型コロナウイルスを含めた衛生面に関して懸念があります。さらにはエコバッグの普及によって万引きが増えているというお話も聞きます。

○佐藤（幸）委員長

エコバッグにつきましては、様々な話題が挙がるかと思われます。市の方には皆様のご意見をお伺いしてコラム等で取り上げていただければと思います。これまでのご意見について、市の方からご回答はございますか。

○資源循環推進課長

傘等を商店街に捨てられてしまうことにつきましては、皆様の処理作業が負担となっていることよろしいでしょうか。これらのごみに関しましては、商店街清掃ということで対応させていただいておりますので、また何かご不便がございましたらご連絡いただきたく存じます。こちらの方でご要望にお応えしたいと思います。

レジ袋に代わる新たなものにつきましては、ごみの収集効率を考えますとビニール製の袋が一番効率いいと思われます。市民の方からも有料化によって今まで使用していたごみ袋が使えなくなってしまったというご相談もいただいております。そのようなご相談に対してはレジ袋の金額と市販のごみ袋の金額を比較していただいた上でご利用いただくような案内をさせていただきたいと思います。本来、レジ袋を使わないような方向で話を進めたいのですが、収集のことを考えますとそのような袋の方が良いのではないかと考えております。レジ袋に代わる新たなものが見つかりましたら、こちらからご提案させていただきます。

○佐藤(幸)委員長

市の方々には各委員さんの要望、提案を参考にして良いごみ処理基本計画を作り上げていただきたいと思います。（青委員が挙手しているを見て）はい、どうぞ。

○青委員

先ほどのお話にもありましたごみ袋について、資料4の「新たな計画での施策について」で「家庭ごみの有料化」の方法は指定した有料のごみ袋を購入していただくことでしょうか。

○資源循環総務課長

青委員のおっしゃる通り、様々な方法がありますが他都市でやられているように、もしやるとしたら指定袋制ではないかと考えております。しかし現段階ではそれが最善か検討できていない状態なので確定ではございません。

○青委員

私の大学では生徒の出身地域における袋の有料化の有無や袋の種類、金額などの調査を行っております。例えば千葉市では指定のごみ袋を 10 リットル 8 円で配布しております、こちらは好評のようでございます。このような取り組みをモニタリングとして試験的に行うのも良いのではないかと思います。名古屋市でも同様の試験をスーパー等で行いましたが、当時好評だったにもかかわらず賛否両論あって最終的には中止になりました。プラスチックごみによる、温暖化や海洋汚染等への影響を考えるのであれば、ごみ袋は1度だけの使用ではなく2回以上の使用が前提ではないかと考えます。そのためにも市内のどこかの地域を対象に実証実験のようなものを行うべきではないかと思います。新型コロナウイルスの影響で使い捨てプラスチックが増えており、温暖化や海洋環境への負荷・影響も大きくなっています。これらのごみをどのようにして減らすかが重要だと思います。

次に、先ほど新たな案としてリペアを加えて4R から5R へというお話がありました。リペアは確かに重要ですが、私たちの社会の中で修理をしてくれる場所を探すのが難しいというのが現状です。方針として掲げるのであれば責任をもって、どのような場所で修理を行っているのかといった情報を市民にきちんと開示して、リペアをしようという言葉だけにならないようにしなければいけないと思います。

また、R で考えるのであればヨーロッパの方でよく聞かれるのはリバイ (Rebuy) というのがあります。リバイとはリサイクルされて製品になったものの価値を認めて積極的に購入するという考え方です。せっかくお金をかけてリサイクルしても買う側がいなければリサイクルする意味がありません。現在形成されつつあるリサイクル社会においては、リサイクルすることの価値を認めて、完成品を作っている企業 (BtoB) や消費者 (BtoC) がリサイクルされた部品や製品を購入する社会を構築することが、SDGs の目指すところであり、ヨーロッパで進められているサーキュラーエコノミー (循環型経済) の本質であると考えます。横須賀市の新計画の基本理念についても、「SDGs のためにできること」ではなく「SDGs を達成するために」その目標に向かって具体的に何をするかを掲示していかなければならないと思います。現場の状況に詳しい委員が多くいらっしゃる中で、それぞれの立場の方の意見を聞いているわけですので、この新計画が言葉だけにならず、進んで新しいことを取り組む計画になるよう作成していただきたいです。

○佐藤(幸)委員長

積極的なご提言をいただきました。(米村委員が挙手しているを見て) はい、どうぞ。

○米村委員

私も青委員の意見に賛成です。SDGs を達成するためには市・企業・市民が密接に連携する必要があります。市が市民と企業の間立ちアドバイザーとして市民にわかりや

すく知識提供することで余分な購入や廃棄を防いだり、企業市民の力を借りることで SDGs の達成につながると考えます。そのような観点から、先ほど青委員がおっしゃったようなモデル地区を使った取り組みを進めるのは良いことだと思います。

○佐藤(幸)委員長

青委員と米村委員から実効性のあり、なおかつ市民にとって身近な意見をいただきました。これを市の方で活用していただきたいと思います。まだご発言をいただいてない方からも意見をお伺いいたします。渡辺委員、いかがでしょうか。

○渡辺委員

ごみ量の推移について、令和元年度のごみ量（燃せるごみ）には 11 月からエコミルの分が入っているので、令和元年度と令和 2 年度で上期の数字を出していただくと、今後の動向が読めるのではないかと思います。また、アイクルでは二重袋禁止の注意喚起を行っていますが、南処理工場からエコミルへの変更による問題点がございましたら教えていただけますでしょうか。

○佐藤(幸)委員長

市の方からご回答ございましたらお願いします。

○資源循環総務課長

南処理工場からエコミルへの変更に伴い、工場や焼却行為自体には特に問題点がございませんが、市民の皆様への分別変更の周知が足りていないこともありまして、製品プラスチックを不燃ごみとして出されてしまう問題が発生しています。今後啓発を進めて改善していきたいと思います。

○佐藤(幸)委員長

北村委員、お願いします。

○北村委員

袋の有料化については有料化の必要性や環境問題としての観点を市民レベルに置き換えて考えるべきではないかと思います。横須賀市内にも大手の企業がありますので、それぞれの環境に対する企業努力を発信することによって、市民の意識レベルを上げたり、生活の上での知識や工夫として情報提供したりすることが重要ではないかと考えます。

○佐藤(幸)委員長

続きまして、鈴木委員お願いします。

○鈴木委員

私はネット通販によって送られてくる段ボールやスーパーで商品を買ったときに出る小さい紙袋などの細かいものまで集団資源回収に出しています。そのため、新聞購読者の減少を考慮したとしても、集団資源回収量が減っていることが理解しがたいです。燃せるごみの収集日に集積所を見ても、集団資源回収に回せるような紙が燃せるごみの中にくさん見受けられます。

また、先ほど青委員がおっしゃっていた海洋プラスチックについてですが、魚市場の魚が昔は新鮮でしたが今では曲がった魚を見かけたりします。これも海洋プラスチックが原因なのではないかと思えます。私は海岸のごみを清掃していますが、コンビニのコーヒーカップなどが多いです。私も周りの人に積極的に声掛けを行っていますが、啓発によって一人一人の意識が改善されれば、燃せるごみや海洋プラスチックが減少し、集団資源回収量が増加するのではないかと考えます。

○佐藤(幸)委員長

委員の皆様から非常に中身のある意見をいただくことができました。市の方としては、皆様からいただいた意見をもとに濃い内容のごみ処理基本計画を作っていただきたいと思えます。

(4) その他全般

○佐藤(幸)委員長

他に意見等ある方はいらっしゃいますか。（藤田委員が挙手しているを見て）はい、どうぞ。

○藤田委員

青委員にお伺いしたいのですが、名古屋市と千葉市の家庭ごみの有料化について、収集方法は戸別収集でしょうか。

○青委員

はい。

○藤田委員

家庭ごみの有料化となると戸別収集になります。横須賀市の集団資源回収場所では、200段の階段の上にあるところもございいます。それを踏まえた上で横須賀市としてそれが

適切かどうか検討していただきたいと思います。

次に、新たな計画での施策の「びんの分別区分変更」についてです。現在横須賀市では、缶・びん・ペットボトルを一括回収してアイクルで選別を行っております。今後、びんの色による分別を行うかどうか、行う場合どこで色ごとにわけるか検討していくことになると思います。びんの回収時には大きな音が発生し市民の生活に支障をきたす恐れがありますので、その点も含めて今後検討していただきたいです。

○佐藤(幸)委員長

（上田委員が挙手しているを見て）上田委員、どうぞ。

○上田委員

リペアについて先ほど青委員から意見をいただきましたが、不良品交換会等によってリペアすることのできる場所を今後作っていく必要があると思います。リデュースに関して、レジ袋の代わりとなるものを作るにしても、有害でないものを作るよう行政の立場から発信していくべきではないかと考えます。

○佐藤(幸)委員長

（青委員が挙手しているを見て）はい、どうぞ。

○青委員

私もリペアは必要だと考えており、実行するための体制をしっかりと整えることが重要だと考えます。また、リペアによる長寿命化はリデュースにもつながると思います。

○佐藤(幸)委員長

市の方々には皆様からいただいた意見を今後のごみ処理基本計画の策定に活用していただきたいと思います。また、委員の方々には基本計画の内容をさらに深めるために今後ともご意見をいただきたいと思います。今後の予定などについて、事務局からお願いします。

○資源循環総務課長

本日はありがとうございました。委員の皆様からいただいた貴重な意見をもとに、庁内でも検討を進めて横須賀市らしい新しい計画を作っていきたいと思います。

本日の議事概要につきましては、出席された委員全員に内容のご確認をいただいた後に、公開とさせていただきます。議事概要（案）は、作成次第、各委員に送付いたしますので、発言内容等のご確認をよろしくお願いいたします。また、次回の審議会開催は10月頃を予定しております。

○佐藤(幸)委員長

本日はお疲れ様でした。これもちまして、横須賀市廃棄物減量等推進審議会を閉会いたします。